



# 小動物対策に特化した電気柵の実証と対策普及

～イチジクにおけるハクビシン、タヌキ対策～

ハクビシンなど小動物被害が発生していたイチジク生産組織において、電気柵の柵線間隔を狭くして防止できるか検証したところ、侵入を防げることが実証された。

また、研修会により対策方法の習得やわな猟免許の取得が図られた。

地区	JA甘楽富岡イチジク生産部		
集落戸数	31戸	農家戸数	31戸
農地面積	270a		
主な作目	イチジク		
加害獣種	ハクビシン、タヌキ、アナグマ、カラス		

## 背景

甘楽富岡地域ではイチジク栽培を推進して地域の特産品として定着を図ってきた。

しかし、イチジクはハクビシンやタヌキに食害されることが多く、新植しても全く収穫できずに栽培をあきらめる農家もいた。

## 事業内容

### 【主な取組】

- ◆ 小動物対策 侵入防止柵(電気柵)の効果検証
- ◆ 現地研修会による対策方法の習得
- ◆ わな猟免許取得の推進

### 【取組経過】

- H22年 7月 防草シートの設置  
 8月 電気柵実証圃の設置(10a)  
 8月 簡易ネット+LEDライト実証圃の設置(2a)  
 8~10月 実証圃における侵入防止効果調査  
 8~10月 わな猟免許取得促進  
 8~11月 被害状況調査、意向調査  
 9月 現地研修会



## 成果

- ◆ 電気柵の柵線を狭めればハクビシン等の小動物の侵入を防げることが実証できた。
- ◆ 簡易ネット+LEDライトの実証圃では鳥による食害は一部あったが獣による被害は無かった。  
ただし、LEDライトの効果は判然とせず、ネットのみでもよいと考えられた。



## 地区代表者 コメント

実証圃の実施により被害を防げることがわかり、部会員も電気柵を設置するようになり被害は減った。事業をきっかけに、わな猟免許を取得したので捕獲も実施していきたい。



## 事後評価



指標	A	B	C	D
被害	減った (5-10割)	減った (-5割)	変わらない	増えた
出没	減った (5-10割)	減った (-5割)	変わらない	増えた
集落環境	改善した	やや改善した	変わらない	悪くなった
集落ぐるみの取組	出来ている	概ね出来ている	一部出来ている	出来ていない
対策実施	よく実施している	概ね実施している	一部実施している	実施していない
波及性	波及した	概ね波及した	一部波及した	波及していない
効果の実感	満足	やや満足	やや不満	不満

## センター評価

ほとんどの農家で対策が実施されるようになったが、一部の圃場では実施されていないことから更なる対策推進が必要である。

## 課題

対策の有効性を部会員全員に周知するとともに、部全体での情報共有や対策の継続性が必要である。